

Sustainable Report No.052

地球を冷やすBBQ



サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 社会課題

- BBQなど屋外の食事後、**ゴミや道具の放置**という心無い行動が発生している。日本オートキャンプ協会の調査では、ルール違反の発見や報告、注意の「頻度が高い」回答が最も多いのはゴミ置き場だった。
- 日本では2011年頃からアウトドア人口が増加する中、コロナ禍の影響で**3密を回避できる遊び**としてもブームが重なった。
- 初心者が処理に困りやすい灰炭や生ゴミは、**悪臭の発生や河川への流出**など地域の住環境に影響を与える。景観を重んじる奈良県天川村や兵庫県芦屋市など、**自治体によるBBQ禁止の条例が増えて**きている。

■ BBQ後に放置されたゴミ



出典：かながわ海岸美化財団

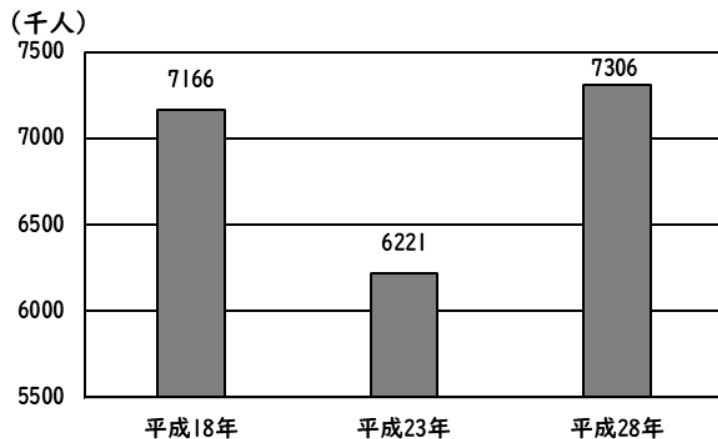
■ ゴミ放置によってBBQを禁止する自治体



出典：海山にこいま

灰炭やゴミ問題をどのように解決するか？

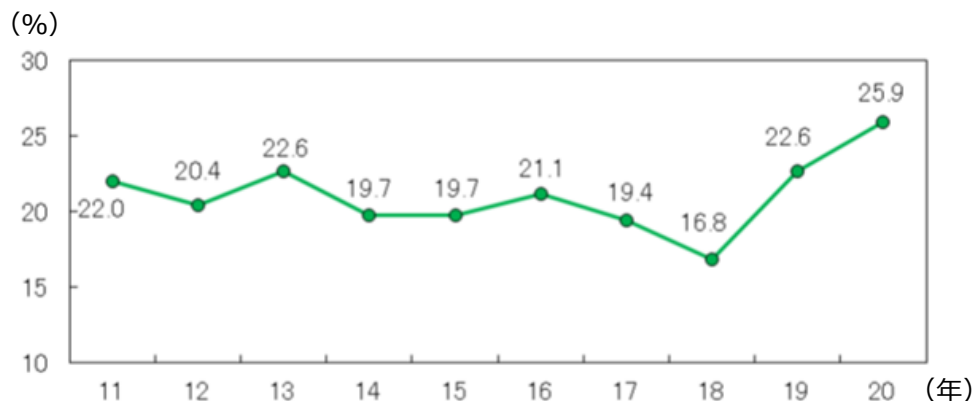
■ キャンプ参加人口の推移



キャンプ参加人口が増加しており、オートキャンプ場稼働率も過去最高となっています。／キャンプの多様化、参加人口の増加に比例するように、アウトドア市場の拡大傾向が続いています。（引用）

出典：公益財団法人日本キャンプ協会

■ キャンプ経験1年の割合の推移



キャンプが注目され、また**多くのビギナーが参入**したことにより、「焚火」や「ソロキャンプ」の用具を中心にキャンプ用品の需要は高まり、キャンプ用品を代表するテントの輸入金額は129億7,000万円、19年から9.5%増となるなど好調な動きを見せた。（引用）

出典：一般社団法人日本オートキャンプ協会／PRETIMES

■ 解決事例

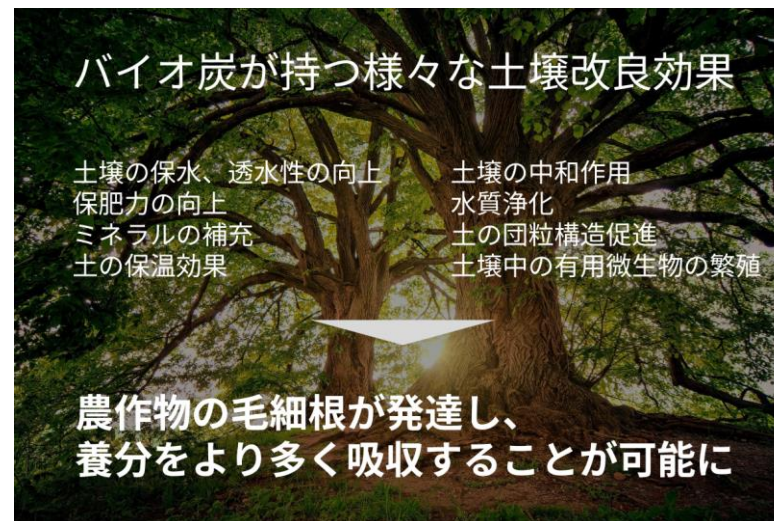
- 2018年に設立された大阪市の株式会社エイトダイニングは、飲食業やBBQレンタル事業を展開。
- 使用済みの道具や灰炭まで片付けまで代行する一方、**木炭をバイオ炭として農地の土壌改良剤**に利用する。さらに、その畑で作った野菜を利用者に提供。
- 一般的な生産方法と比べて、**味や安全性といった品質**にも好影響が明確であれば、購買意欲に繋がるのではないか。

■ 土壌改良に利用される炭



出典：株式会社エイトダイニング

■ バイオ炭土壌改良効果



画像：筆者作成

美味しさをどのように消費者に伝えるか



株式会社

Eight Dining



出典：株式会社エイトダイニング

■ 企業展望

- 環境に配慮した商品の提供者は、エコである根拠や生産背景を**積極的かつ十分に利用者へ発信**していない場合があるのではないかな。
- Webサイトだけでなく、**実際の利用場面における対面説明**によって、エコな活動から派生する成果物に関心をもたれることが理想である。
- さらに提供者側は、CO2削減などどれだけ環境貢献に繋がっているのかを分かりやすく**定量化**することによって、商品特性から企業特性に拡大して**モチベーションや目標設定に繋がる**と考えられる。

■ CO2を削減する野菜に表示されるクールベジ



出典：Published in 食と農と風景



出典：Published in 食と農と風景

自らが関わるクールベジタブルを積極的に選択する社会へ

■ 参照・引用資料

- 一般社団法人 日本オートキャンプ協会,「キャンパーのマナーをキャンプ場にアンケート調査」,2021年10月14日 (<https://www.autocamp.or.jp/post-12764/>)
- かながわ海岸美化財団,「コロナ禍でバーベキューごみが増えています」,2021年08月26日 (<https://www.bikazaidan.or.jp/news/20210826/>)
- 公益財団法人日本キャンプ協会,「キャンプ白書2021」,2022年3月29日(https://camping.or.jp/archive_and_download/data/21271.html)
- 一般社団法人日本オートキャンプ協会／PRETIMES,「国内旅行などが半減している中で、オートキャンプ参加人口30%減に留まる」,2021年7月15日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000022815.html>)
- 海山にこいま,「奈良県は天川村に行ってきました!」,2018年11月09日 (<https://blog.canpan.info/furusatokikaku/archive/3720>)
- 株式会社エイトダイニング,「SDGsの取り組み」, (<https://eightdining.jp/sdgs.html>)
- ReTACTION,「持続可能な野菜づくりを目指して クルベジ®商品開発で共感を広げるきっかけづくり」,2021年10月06日 (<https://retaction-ryukoku.com/594>)
- Published in 食と農と風景,「発見クルベジ!〜亀岡発、地球を冷やす野菜〜」,2020年03月31日 (<https://medium.com/%E8%BE%B2%E6%A5%AD%E3%81%A8%E7%92%B0%E5%A2%83/%E7%99%BA%E8%A6%8B%E3%82%AF%E3%83%AB%E3%83%99%E3%82%B8-%E4%BA%80%E5%B2%A1%E7%99%BA-%E5%9C%B0%E7%90%83%E3%82%92%E5%86%B7%E3%82%84%E3%81%99%E9%87%8E%E8%8F%9C-eec54daf5187>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は小川電機株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。